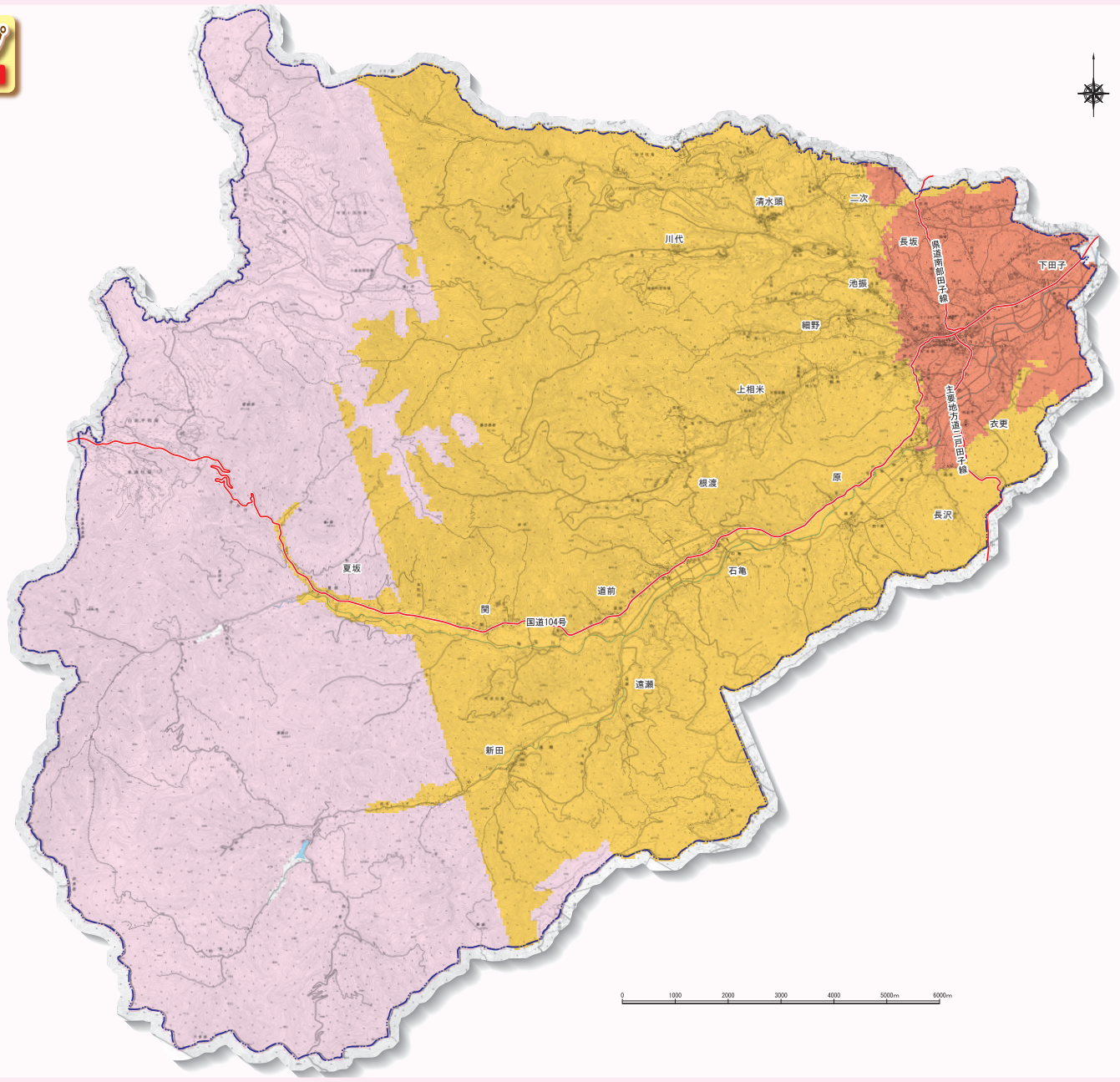
田子町 地震ハザードマップ ～揺れやすさマップ～

揺れやすさマップとは

「揺れやすさマップ」とは、三戸町の東側に位置する折爪断層を震源とする地震が発生した場合に、地域の地盤の状況と、そこで起こりうる地震の両面から地域の地表の揺れやすさを震度として評価し、50mメッシュで表現したものです。なお、震源の位置や地震の規模が異なれば、地域の地表の揺れはマップに示した震度よりも強くなったり弱くなったりすることがあります。
このマップの作成方法は、平成 17 年 3 月に内閣府が策定した「地震防災マップ作成技術資料」に基づいています。



揺れやすさマップの凡例

気象庁震度階級関連解説表より抜粋

震度５強

非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。

屋内の状況
棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。

屋外の状況
補強されていないブロック塀の多くが崩れる。据え付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難となり、停車する車が多い。

木造建物
耐震性の低い住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。

震度６弱

立っていることが困難になる。

屋内の状況
固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。

屋外の状況
かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。

木造建物
耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。

震度６強

立っていることができず、はわないと動くことができない。

屋内の状況
固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。

屋外の状況
多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。

木造建物
耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。

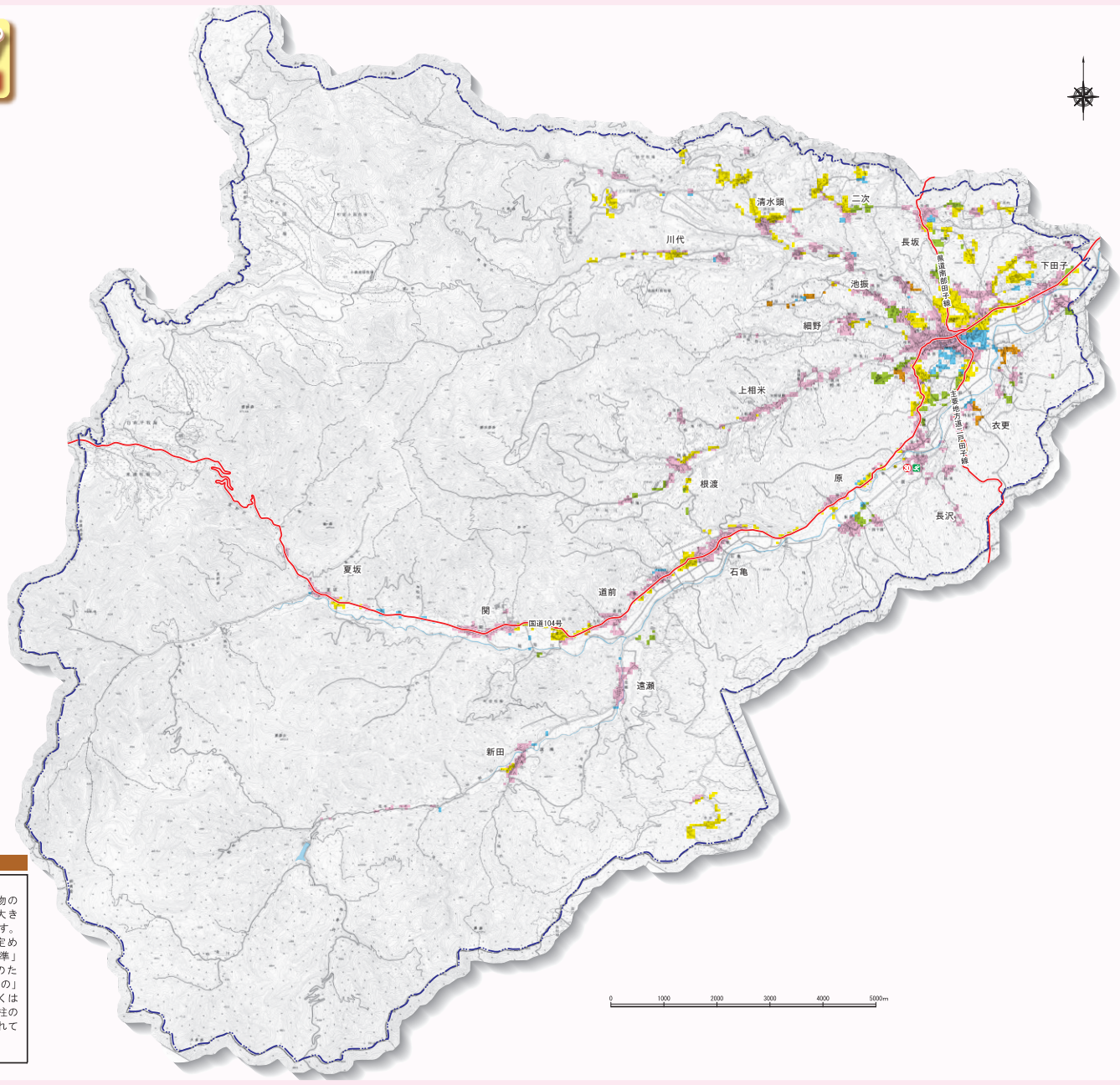
避難場所　緊急輸送道路　河川及び湖

田子町 地震ハザードマップ ～地域の危険度マップ～

地域の危険度マップとは

「揺れやすさマップ」で示された震度と建物構造（木造・非木造）、建築年次別の建物棟数から全壊する建物の割合（全壊率）を算出し、50mメッシュ毎に、5段階危険度として示したものです。特に濃い色で示した地域ほど、危険度が高くなり、相対的に被害を受ける建物が多いことを示しています。なお、実際には、地震に対する建物の強さは個々の建物により異なります。そのため危険度が高い地域であっても耐震化した建物は倒れにくく、反対に危険度が低い地域であっても老朽化した建物は全壊する可能性があります。特に古い木造建物は地震に弱い傾向がありますので、危険度が低い地域であっても十分な注意が必要となります。古い木造建物にお住まいの方は、耐震診断を受け、必要に応じて耐震改修工事を行うことをお勧めします。
このマップの作成方法は、平成 17 年 3 月に内閣府が策定した「地震防災マップ作成技術資料」に基づいています。

震度６の地震が町全域に発生した場合の、建物倒壊による地域の危険度をあらわしています。



地域の危険度マップの凡例

全壊率	
危険度５	30～40%
危険度４	20～30%
危険度３	10～20%
危険度２	5～10%
危険度１	0.1～5%

※≪全壊とは≫
地震等の自然災害による建物の被害の程度の中でも、最も大きく被害を受けた状態を指します。平成13年6月に国によって定められた「災害の被害認定基準」の中で、「住居がその住居のための基本的機能を喪失したもの」と定義され、住宅の全体もしくは一部の階が全て倒壊、外壁や柱の傾斜が1/20以上であるとされています。